



第 20 号

令和 2 年 1 1 月 1 日
高山赤十字病院

病院長よりこんにちは！

拝啓 秋も深まりめっきり日脚も短くなってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか。日頃より開業医の先生方はじめ関係機関の皆さまには、患者さんのご紹介をはじめ、相互連携にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの影響で飛騨地区の観光客の足は一時途絶えていましたが、最近第二波の衰退とともに県外ナンバーの車が目立つようになり、少しずつ観光客の足が戻りつつあるようです。それだけに陽性者の出現の確率は高くなり医療機関は注意が必要です。本号でご紹介していますように当院では 11 月 2 日より「発熱外来」を開設いたします。今後も地域の皆さまが安心して過ごしていただけるよう取り組んでまいります。

北アルプスの山々は薄化粧をまとい、紅葉は里に降りてまいりました。赤黄色に染まる飛騨の町並みが美しい季節、先生方にはくれぐれもお身体ご自愛いただき、実りある晩秋をお過ごしください。

敬具

病院長 清島 満

【同封文書】

○病院長あいさつ「病院長よりこんにちは！」

発熱外来のごあんない

・・・ P2

医師紹介『先生ってこんな人』

麻酔科・道野朋洋医師

・・・ P3

○外来担当医表 11 月分

○高山赤十字病院診療案内

…患者さんによるご予約の場合に当院への紹介状と共にお渡しいただくと便利です

○地域連携係よりお知らせ

○新型コロナウイルス感染症にかかる問診票の持参について（お願い）

・問診票



11月2日 開始



診療・検査医療機関としての 「発熱外来」を開設します

新型コロナウイルス感染症を強く疑う発熱患者さんに備え、
空間的に分離したプレハブの診察室を救急外来の外に3棟設置し、
発熱患者さんの診察や検査に対応します。

発熱外来

開設時間	午前 9時～12時 ・ 午後 13時～17時 (月曜日～日曜日) ※土日祝祭日は、救急外来にて対応します。
受付時間	午前 9時～11時 ※急を要する場合、受付時間外でも対応します。
検査	・PCR検査(遺伝子検査)は、平日のみとなります。 ・時間帯によっては、当日に検査結果が出ない場合があります。
お願い	患者さんを紹介される際、 事前に地域連携までお電話いただきますようお願いします。

別紙、問診票を
同封しています。



地域連携窓口

電話：0577(35)1880

FAX：0577(32)1165



◇◇『先生ってこんな人』シリーズ⑫◇◇

開業医の先生と「顔の見える関係」を築き、安心して患者さんをご紹介いただけるよう
スタートした『先生ってこんな人』シリーズ。第12回目は、2月に赴任しました麻酔科
医・道野朋洋先生です。

麻酔・周術期センター

統括センター長 みちのともひろ
道野朋洋 医師



ご出身はどちらですか？

大阪府高槻市に生まれ育ちましたが、幼少期から夏休みなどの長期休みは、母の実家のある岐阜市で過ごしました。

そのため、岐阜は第二の故郷となり、岐阜大学へ進学した際もまったく文化的なカルチャーショックもなく、比較的すんなり馴染めたように思います。

その後30年程岐阜県にいますから、関西弁もなかなか出てこなくなりましたね。

医師になるきっかけは？

伯母が眼科医であったり、大叔父・従姉弟に医師がいたことは無意識のうちに影響を受けていたと思いますが、原点は「野口英雄」の自伝を読んだことでしょうか。小学校の時は様々な伝記を読みましたが特に感銘を受けたことを覚えています。

その後、中学生までは成績上位の方でしたが、進学校に進むと各地からきた優秀な同級生に圧倒され卒業時には下から数えた方が早いような成績でした(笑)。一浪し、医学部に進学しました。

当時は初期研修期間がありませんでした。麻酔科を選んだきっかけは？

急性期医療に携わりたいと思っていましたが、当時大学に救急科はなく持ち廻り。

卒業が近くなっても救急医療に近い診療科である「第一外科、循環器内科（第二内科）、麻酔科」の3択で決めかねていました。そして、患者さんを断る医療はしたくないという思いが強かったのですが、それは裏を返せば、呼ばれたら必ず出向くということになります。私自身の性格からオフの日も患者さんのことが頭から離れることはないだろうと思っていました。

また、当時バイクが趣味で、せせらぎ街道などツーリングを楽しんでいました。昔は携帯電話の通じない場所も多く、もし電波の通じない場所にいるときに電話がかかってきたら…と考えるとその責任は重大と感じていました。

一方、麻酔科は主治医になることはないので、オンコールでない限り電話がかかってくることはありません。オンオフがはっきりしている点が自分のライフスタイルに合っていそうと考えたわけです。しかし、第一外科の医局長から勧誘の電話をいただいたとき、3つの科で迷っていることを正直に伝えたところ、「それはぜひ麻酔科を助けてやってくれ」と(笑)。そうしてやっと道野は決断していたという同級生もあり、主観と客観ではどうも真実が違うようです(笑)

サブスペシャリティは？

麻酔科は緩和治療、ペインクリニック、心臓麻酔、小児麻酔など多岐にわたりますが、私自身は集中治療に興味があります。重症患者さんのICUにおける観察と治療は、麻酔科医の実力が活かされますのでやりがいを感じています。

ICUでは循環器や呼吸器・消化器・脳神経・泌尿器など、さまざまな観点から患者さんを注視し、全身管理を行っています。そのほか、疲れている臓器は元気になるまで休ませ臓器を回復させる休息治療が行われているのも特徴で、言うなれば患者さんの番人を務めるのが仕事です。そのため医師だけでなく看護師・ME・薬剤師・管理栄養士などとチームを組んで高水準の医療を提供できるよう努力を重ねています。

現在、常勤医は私ひとりですが、365日24時間対応するにはあと2名は必要です。

医局には飛騨出身の若い医師がいますが郷土愛に溢れ、いずれ帰郷したいという思いがありますので、後輩のためにも将来の道筋を作り環境を整えることも私の役目だと思っています。

そのような意味でこの地域に少しでも貢献できればと思っています。





月曜日に診察枠をお持ちですね。

術前の診察が主ですが、手術の可否を含めたコンサルもしています。

>>>同僚の先生も相談できる常勤の道野先生がいらっしゃるの心強いですね。



休日はどのように過ごしていますか？

昔はバイクが趣味で勤務明け船で北海道に渡りツーリングし、日曜の夜に帰宅することもありました。

バイクを手放したあとも後ろ髪をひかれることがあります
が歳には勝てず、今はどちらかというとインドア派。

ボードゲームや漫画も読みますし、ウィークデーはお酒を飲みませんので週末の晩酌も楽しみのひとつです。

麻酔・周術期センター

統括センター長 みちのともひろ 道野朋洋 医師

(日本麻酔科学会 専門医・指導医)

開業医の先生方へメッセージをお願いします。

外来は隔週でペインクリニックを行っており、大学から専門医が出張し診察しています。

外傷などの急性疼痛は原因が治癒すると痛みも消失しますが、神経障害や心理社会的な要因が加わると慢性疼痛に移行することもあり、痛みの存在はQOLを低下させます。

そのため、できるだけ早急に痛みを緩和することが大切です。頭痛、三叉神経痛などの顔面痛、頸肩腕痛や腰下肢痛などの運動器疼痛、带状疱疹による痛みや糖尿病性神経障害などの神経障害性疼痛、血行障害による痛み、遷延する術後の痛み、がんやその治療に伴う痛みなどが対象ですが、原因のよく分からない痛みを抱えて悩んでいる患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご相談ください。

また、お年寄りなど遠方での手術が難しい患者さんはもちろんのこと、術後管理も踏まえお気軽にご相談いただきたいと思います。